
全 員 協 議 会 会 議 記 録

令和2年2月12日

会 議 記 録

会 議 区 分	全 員 協 議 会
開 催 年 月 日	開 議 午 前 1 1 時 0 3 分 令 和 2 年 2 月 1 2 日 散 会 午 前 1 1 時 4 8 分
場 所	苫小牧市議会 大会議室
出 席 者	金澤議長、藤田副議長、喜多議員、山谷議員、 板谷議員、触沢議員、竹田議員、宇多議員、神山議員、 大西議員、大野議員、牧田議員、首藤議員、橋本議員、 佐々木議員、小野寺議員、原議員、木村議員、 矢嶋議員、桜井議員、谷川議員、池田議員、越川議員、 松井議員、岩田議員、松尾議員、小山議員、富岡議員
欠 席 議 員	————
事 務 局 職 員	園田事務局長、宮沢主幹、能代副主幹、 小坂主査、高尾主査、吉田主査、
付 議 事 件 及 び 議 事 の 経 過 概 要	別紙のとおり

全 員 協 議 会 会 議 案

令和2年2月12日（水）午前11時

苫小牧市議会 大会議室

1 案 件

(1) 議員定数について

●議長（金澤俊） ただいまから、全員協議会を開会いたします。

●議長（金澤俊） 本日の案件は、お手元に配付の会議案のとおりであります。

お手元に資料として資料1から資料3を配付させていただいておりますので、御確認をお願いします。

資料1と資料2は資料3から抜粋をしたものです。資料3には、前回までの全員協議会における全議員の意見を載せております。資料1は、検証意見について、資料2は、前回の全員協議会終了時点の意見を集約し、議員数の現状維持、減、増、保留の区分ごとの人数を表にしております。

それでは、協議に入らせていただきます。

資料1をごらんください。

議員定数について、各議員からいただいた検証に関する意見をまとめております。

資料の下枠には、参考までに前回正副議長から上げさせていただきました5項目を載せております。改めて検証内容ごとに意見を御紹介したいと思います。

まず、本会議の検証については、池田議員から、定数の増減による本会議への影響というものは実感するのが難しいのではないかと御意見がございました。

次に、委員会の検証について、越川議員から、現在常任委員会は4つあるが、苫小牧市議会の交渉会派が2人以上となっていることから、各会派が各委員会に所属できるように4つから2つにすることを考えたいという御意見、そのほかの議員からも、委員会数の増減及び複数所属について議論をする必要があるとの御意見がございました。また、小山議員から、委員会のあり方については、議員定数と切り離して議論をし、議会改革検討会で今後検討していくべきとの御意見もいただいております。

次に、議員定数に関し、数値化した比較検証について、神山議員から、26人であったときだけではなくて、過去の36人のときなどとも比較検証すべきとの御意見、また、松井議員、桜井議員から、過去の36人のときなどと現在とでは質問時間、質問方法が違う部分があることから、定量的な比較は難しいという御意見もいただいております。

次に、議員定数の議論を行う者について、矢嶋議員から、当事者以外の意見、第三者の意見が必要との御意見、越川議員からは、市民の意見を聞くフリートークのような場を設けてはという御意見、また、定数を減らしても広く市民の意見を聞くことができるかということについて、議会改革検討会で議論してほしいという御意見もいた

だいております。

次に、議会費からの検証について、これも越川議員から、報酬や政務活動費、委員会視察の廃止などによる議会費の削減の観点から考えてはという御意見、また、桜井議員からは、議会費削減の議論よりも、市政の監視機能を重要視したいとの御意見もございました。

次に、投票率の分析については、小山議員から、投票率が近年下がっており、危機的な状況であることから、議会及び議員として発信する努力をし、投票率を上げるために投票率の分析を行う必要があるとの御意見、また、山谷議員からは、投票率と議員定数はリンクはしないけれども、議員から市民に対し定数の必要性を提唱していくべきとの御意見もいただきました。

そして、検証全体について、松井議員からは、各議員の期数も感じ方もそれぞれ違う。検証は感覚的などころであるため、各議員が持っている意見を出し合って、それをまとめていくべきとの御意見がございました。

今るる述べさせていただきましても、本日の全員協議会は、前回に引き続きまして、各議員の皆さんから忌憚のない御意見を伺いたいと思っております。前回は検証についての御意見をそれぞれいただきましたが、派生していろいろと検討すべき項目についても御提示をいただいておりますので、今回も、言い足りない部分がありましたら、それぞれ挙手をいただきまして御意見をいただければというふうに思っております。

議員定数のあり方について、もしくは検証について、御意見のある方は挙手いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

矢嶋議員。

●議員（矢嶋翼） 皆さんと、適正な定数とは何人ぐらいなのかということについて議論をさせていただいておりますけれども、ということは、ルールがないわけですよ。何人がいいかという一つのルールが今苦小牧市議会には残念ながらないので、ですから、僕は、それぞれの意見を聞いて、一つの落としどころをどこかということになるのだろうと思っております。であれば、逆に、全く新たな提案なのですが、苦小牧として、一つのルールづくりもあっていいのかなと。それで、一番市民の方々に納得いただけるのは、やはり人口比なのかなという。人口規模において、だからこれぐらいの人数が適当なのではないかという、そのあたりの一つの落としどころもあるのではないかなと思っております。となると、例えば道議の方の定数なのですが、おおよそ僕が聞いている、皆さんの認識もそうかと思うのですが、大体人口5万人に1名というような、何というか、別に文書化はしていな

いかと思いますけれども、5万人に1名というような目安でということで。苫小牧が今17万人なので、そういった認識が、ちょっと私どもは持っているのです。

であれば、市議も何かそういう、何万人に何人というか、そういったものは考えられないだろうかという提案なのですけれども、例えば道議が5万人に1人であれば、市議はでは1万人に1人、例えばですよ、仮説として。1万人に1人というふうに考えたら、苫小牧は17名になってしまうのですよね。だけれども、よその町、ですからこれをはめて、1万人に1人とはめてみると、やはり困ることも、困る町もあります。

例えば、登別であったら人口4万8,000人ですから、そうすると約5万人ということで、登別市議会は、では5人でいいのかということになりますし、伊達であったら3万4,000人しかいませんので、3人か4人と。では、3人か4人という議会というのも、これは現実的に考えられないわけです。

そして、さらに小さい町、もっと小さい町はどうなのかというふうにもちょっと見てみました。そうしたら、夕張ですね。一番今困っている。夕張が今人口8,000人で8名の市会議員がいらっしやると。それから産炭地の赤平が1万人で10名の議員がいるということですので、ですから、かなり人口が少なくても、おおよそ10名前後の議員はやはり必要だと。人口1万人の町でも10名いますので、ですから、やはり最低でも10人はいなければならぬのかなと、そういうものがこう見られるのですよ。

ですから、基本ラインというのですか。最低限のラインを10という、10名、どんな町であっても、市であれば10名は置きましょうと。これを基本ラインと考えて、それにプラス、人口当たり1万人に1人という、先ほど言ったそれをプラスすると。要するに基礎数が10名です。それに人口1万人に1人ずつ、例えば出そうではないかとなると、ちょうど、では苫小牧はとなると、基本数の10名プラス17万人ですから17名で、そうすると合計27名がそういう人口割、一つの考え方ですけれども。ですから、例えば苫小牧が将来、何か数年後には16万人、17万人を切るのではないかとされておりまして。最短で2年後には16万人台になるかもしれない。そうすると今度は26名になるのですよね。基礎数10プラス16万人ですから16名で合計で26名。苫小牧が人口16万人になったら26名になると。こういった、済みません、私の勝手な計算方式なのですけれども、こういったルールみたいなような。ですから、一回一回、また今後も、将来も、4年ごとにどうするのだ、どうするのだとけんけんごうごうやるよりも、すっきりと、この辺の基本ラインみたいなものを苫小牧モデルとして一つのルールづくりをすれば割とすんなり今後も、5年後も10年後

もいくのかなと思っております。

そして、私は第三者の意見も取り入れたらと定数について言わせていただきました。それで、やはり我々当事者ですよね。当事者の我々が自分たちの人数を決めるのはちょっとどうなのかなという、市民の皆さんにも俺にも言わせろと思っている市民の方もいるのではないかなと思っていますし、既に報酬については報酬審議会ということで第三者機関が私たちの報酬を決めている状況にありますので、ですから、セット論的な話もありますし、であれば報酬だけではなく、定数についてもその審議会の皆さんに適正な定数を、ある程度市長にも答申してもらおうということもあっていいのではないかなと思っております。

それで、別に苫小牧の参考というわけではないのですけれども、実はあの有名なサンフランシスコ、前に僕も人から聞いた話なのですけれども、ちょっと最新のデータではないのですけれども、アメリカのサンフランシスコでも市議会議員は11名だそうです。あれだけの世界的な大都市でも、11名の市議会議員でアメリカはやっているという、そういった例もあるのだよということの有権者の方から言われたこともあります。これはなかなか日本の事情があつてあれなののですけれども、そういった世界レベルの都市でも11名の議員でちゃんと回っているということも僕は言われましたので、それも。

そんなところでございます。以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

今矢嶋議員からは、一つの定数の考え方としての算出の仕方といいますか、それをルールづくりしてはどうかということで提案がありましたけれども、ほかに何か御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

小野寺議員。

●議員（小野寺幸恵） まず、ルールづくりについてなののですけれども、私は今の段階ではルールをつくる必要もないのではないかなと思っています。

まず、そんなに人口が大きく、急に大きく減る状況ではない中では、やはり定数は現状維持ということが今はベター、ベストだと思っています。そして、そもそも、では議員は何のためにいるのかということ考えたときに、減らすことが議会改革だと私は思いません。これは今までも言ってきました。それよりも、そもそも、住民の声をしっかり議会に反映させたり、行政運営に生かすような取り組みをすること、そして行政のチェック機能と言われていています。それだけではなくて、多分皆さんもやられていると思うのですけれども、連日のように多分相談活動があつたり、いろいろな催しに参加したり、そしていろいろな団体の方との意見を聞いたりということで、

日々議会がなくても活動しているのが議員だと思います。多分そのあたりが市民には見えていないと思うのですよね。

それで、検証といったときには、議会でどのぐらい質問したのか、何分質問したのか、何項目質問したのか、頻度はどのぐらいなのかということも一つの目安になるのかもしれませんがけれども、私はそれは検証の項目には残念ながら値せず、日々どれだけ市民と接する活動をしているかということだと思います。

それを多分皆さんたちがやっていることが市民全般に受け入れられていないというか、周知されていない、認知されていないから、議員は多いのではないのかと、たった年間4回しかやっていない議会で、28人も多いのではないのか、ふだん何やっているのか、そういうふうに言われることも私自身もありますけれども、議会のないときほど忙しいのが皆さんだと思うのです。そういうものをしっかり私たちも見える化をしていくということが議会改革にもなっていくし、議員自身の、議員と市民とが距離が近い存在なのだよということのアピールになると思うので、そういうことを一人一人が心がけることと議会として発信していくことが議会改革なのではないかと思えます。

そういう意味では、今は現状維持のまま進めながら、しっかり市民に何をやっているのかとか、議会は何なのというふうに思われないように活動する、発信していく、そこに議会改革の重きを置くということが大事だと思っておりますので、今回もやはり検証するのは難しいと思えますし、議員定数というのは、現状、今の人口比でいうと28人というのは決して多くはないというふうに思えますので、私の意見として申し述べておきます。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

ほかに御意見のある方はいらっしゃいますか。

小山議員。

●議員（小山征三） 議員定数ですけれども、以前は36名ということで、たしか自治法の中で若干触れていたのですけれども、今はこの議員定数条例、条例が市で定められているので、私は第三者の意見を聞く、あるいは市民の意見を聞くというのはどうなのかなとちょっと思っているのです。というのは、条例というのは市が提出の場合は市長が責任を持って提出する、議会が責任を持って条例を提出もしくは改廃するということであって、その条例改正に当たっては、例えば住民説明会なりパブコメを経てやるという手法もあるので、その自分たちに与えられた権利を市民の意見を聞いて変えるということは、私は正直言って考えられないのです。議員が責任を持っ

て、やはり定数はこうあるべきだと、そして市民に説明を求められれば説明をするということが本来の条例ではないかと思うのです。

今条例の中で定数が28とある以上、ふやすにしても減らすにしても、まず説明責任を果たしていかなければならないということがあるので、安易に住民にその責任を与えるのではなくて、議会として議員として何名なのだという責任を果たしていく必要があると思います。

その中で、矢嶋議員の言った議員定数をつくるに当たっての基準というか、そういうものをつくる必要があるのではないかという意見は、説明する以上、何なりか出てくると思うのです。今なぜこの28が必要だと。ただ、今28なので、これを26にする場合、何で2名下げるのだという根拠、もしくはこれを30に上げる場合の30に上げる理由というものもきちんとなければならないので、今の段階では、市民に意見を聞く、そして第三者機関に委ねるということではなくて、議会として、ふやす場合はどうするのだ、減らす場合はどういう根拠をもっていくのだということが必要なので、現状はまず、我々はこの28で、私自身は多いとは思わないのです。だから現状で、個々にまず発信力を鍛えていきたいと思いますという事に徹すべきだと思います。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

ほかに御意見はございますでしょうか。

このルールづくりに対してのお考えだけではなくて、全員協議会を今やっているのは、定数についてのいろいろなお考えを出してもらおうという、議論をしようということですから、改めてですけれども、今回で3回目ですか。特に縛りはありませんので、どんどん御意見を出していただきたいと思います。

池田議員。

●議員（池田謙次） 済みません。繰り返しになります。前回は触れました。

根本的に言うと、大体いろいろな、通常だったら代表者会議か何かで会派の意見というものをまとめてやるのでしょうけれども、こういう、皆さんの総意で全議員の意見を聞くということで、私は大体出尽くしたのかなというふうに思います。

今新たに矢嶋議員のおっしゃったルールづくりということについても一つの意見ですから、それについては私は今小山議員が言ったように全くそのとおりで、ルールということは必要ないとは思わないけれども、これから人口が下がっていく、何するという、総体的に見ると要は議会改革を、要は市民の方にとりか、議会がいわゆる活性化するということが市民のためにどうなっていくのかという議論の、多分、まずは入り

口論の数字かなというふうに私は思うのです。

それで、当然数も大事、ただ、1,000人に1人だろうが、5万人に1人が、何というのか、答えというものは、正論というのではないわけで、回答というのはいいというのが。それはどこかで皆さんで実感性のある、議員なり、いろいろな意見を聞きながらそれを決めればいいし、私は、ここまでいろいろな意見が出たから、もうそろそろ決着つけるというか、方向性を決めないとだめかなということと、先ほど小野寺議員が言った、これは私は前回も触れましたけれども、数も大事、でも私はそれ以上に中身というか、議員力というか、一人一人の議員が本当に力をつけて、より発信力にしても実現力にしても力をつけなければだめだということを私はずっと一貫して訴えさせてもらっていますから、まずはその辺のことが私は最優先するのかなというふうに思うもので、それであれば、まずは定数はそのまま、まずは自分たちが何できるのかなと、議員がどう力をつけられるのかなということ、私はしっかりやらないと、数だけの話というのはちょっと半減かなというふうに個人的に思うものですから、それはセットでやりたいし、これだけ意見がもう、大方全議員の意見が出たわけですから、議長、副議長の中で、そろそろ方向性を決めていただけないかなというのが実感です。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

今池田議員からは、今後の結論を出すということも含めて御意見をいただきましたけれども、他に御意見のある方はいらっしゃいますか。

桜井議員。

●議員（桜井忠） 皆さんの意見を聞いていると、それぞれが、それぞれ納得するような意見ばかりではあります。ただ、私も池田議員が言うように、それぞれが自分の考え方を示して、それぞれある程度出尽くしたのかなという気はしますが、今回の矢嶋議員の提案というのは非常に何というか、この段階で新たな提案というか、ですからそういうものを今この場でどうこうという結論が自分の中では出ません。逆に言うと、そういうシステムをつくって今後運営していくというのもありなのではないかなとも思います。

そういう意味で、出尽くした感はあるんですが、今すぐここで決めるというよりは、その辺は例えば場を変えて、代表者会議で今後、出尽くしたのであればやるとか、ここですぐ結論を出すということではなくて考えていきたいというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

岩田議員。

●議員（岩田薫） 矢嶋議員のほうから一定程度の話もありましたけれども、僕も前回のときに資料を見ながら6, 000という数字の話もさせていただきましたし、その根拠をつくるのがまた大変な話になると思うのですけれども、先ほどから議長からもお話があるとおり、それから先ほど池田議員からもお話がありましたとおり、それぞれ皆さんから意見も出尽くしたのではないかなと思います。今桜井議員がおっしゃったとおり、新たな提案もございますけれども、できれば今議会中に一定の方向を、場所をここにするかどこにするかはちょっと別にしまして、今議会までに決着をつけるべきだと私は思います。

以上です。

●議長（金澤俊） 他に意見はございますでしょうか。

よろしいですか。

富岡議員。

●議員（富岡隆） みんなの意見をまた、言ったほうがいいのかと思って手を挙げましたが、私も池田議員がおっしゃったように、もう出尽くしたと思います。それで、こういう丁寧な皆さんの発言もいただきました。そうなりますと、やはりこれ以上議論というものは私はないのかなと思いますので、私も今岩田議員が言いましたように、今議会中に結論を出して、そしてすっきりさせたほうがいいのかというふうに思っています。そのことをちょっと話しておきたいなと思いました。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

他に御意見はございますでしょうか。

松井議員。

●議員（松井雅宏） 今議会中に結論をとというお二方からの御提案もあったのでちょっと発言をさせていただきたいと思いますが、そもそもこの定数問題については会期前半に結論を得ようということでスタートしてきていることであります。皆さんおっしゃったように、全議員の発言をこの場で3回通じて出してきたということは、これはとても意義のあるものだというふうに思いますし、いい全員協議会ではあるなというふうに感じておりました。

それで、何を申し上げたいかということ、今議会ですべて決めるということではなくて、いろいろな多様な意見、また矢嶋委員の先ほどの提案も私も一考あるなというふうに思わせていただきましたので、あくまでもこれまでの間のこの場の議論を踏まえながら、その点検もするという意味も含めて、今議会と言わずに、もう一議会ぐらいそういった作業をしながら、別な代表者会議もしくは議会改革検討会、そういったと

ころで結論を得ると、最終的な結論を得るということにしてはどうかというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） 他に御意見はございますか。

今各議員の皆さんから御意見をいただきました。内容的なものも述べていただきましたし、途中からは、この方向性を出すべきだというお話、それから場所をどこでやるのかというお話、それから時期的にいつ決めるかということについても言及があったと思います。

今松井議員からもありましたように、この全員協議会でやる意義というのは、いろいろなことについて議論するということですから、ここまでのいろいろ出していただいた意見、そしてそれに対していろいろ御意見を出していただいたということについては非常に意義があったと思っております。

正副議長としては、この定数については議論は確かに出尽くしたかなと思っております。皆さんからの今御意見では、一定のその方向性を出すべきということについては異論はないのかなと、そういう時期に来ているのではないのかということについては異論はないと思います。

この後の意見のまとめ方なのですが、どこでまとめるのかということと、それからいつ結論を出すのかということ、この2点が論点になろうかと思っております。ですから、この諮り方も、これだけいろいろな意見が出てくると集約が難しいというのもありますから、まず、どこでやるのかということについて、実は正副議長でこれまでいろいろ各会派の代表の方にもいろいろ意見を聞いたりとやってきておりますが、一つの考え方としては代表者会議に今まで皆さんから出していただいた意見を申し送ると。それで改めて代表者会議、言いかえれば議会改革検討会になろうかと思っておりますけれども、そこで各会派の代表による最終的な結論を導くということが一つ考えられるかなというふうに思っています。

もう一つは、せっかくこの全員協議会でやっていますので、この場で決めるべきだという意見をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、今大体聞いていますと、代表者会議なり、しかるべき場所に移すべきかなという意見があったと思いますが、そういう方向性でちょっと諮ってみていいですか。

今私の意見を申し上げましたが、これは正副議長としても、これまでも議論してきた今後の方向性でもあるので、改めて皆さんに諮りたいのですが、この全員協議会で行ってきた議論を代表者会議、言うなれば検討会に送っていく、このことについては異論がないでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) それでは、小野寺議員。

●議員(小野寺幸恵) 今議長がおっしゃったことにおおむね同意いたします。そもそも定数の問題は4年の任期の前半の部分で結論を出そうということから始まりました。それで松井議員が、まだ早いのではないかという気持ちもよくわかります。

それで私の今の考え方なのですけれども、今、定数のあり方の問題でいろいろな意見が出ました。委員会をどうするべきかとか、あとはほかにいろいろな委員会視察のことや政務活動費なども含めた経費節減の問題、こういうことは議会改革に私は値すると思っていますので、議員定数をできるだけ早く、例えば今議会に決定させて、その上で、では委員会のあり方をどうするべきかとか、割り振りというか、一人の議員が複数入れるであるとか、何個かの委員会にまとめようではないかとか、そういう議論にもかなり時間がかかると思うので、私としては、議員定数が決まらないとそのスタートが行かないものですから、まず、今議会で決めるということと、あとは、これだけ議員定数の問題というのは市民の皆さんも関心がある問題だと思うので、代表者会議というのはやはり非公開の場所ですので、議会改革検討会などの公開できる場で議論するべきだと思っていますので、私の意見を申し述べたいと思います。

●議長(金澤俊) わかりました。

今小野寺議員からもありましたが、議会改革検討会となりますと公の場でやることになりしますので、代表者会議はクローズでやっておりますが、議会改革検討会に送るということでもいいのではないかと議長としては思うのですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) それでは、これまで全員協議会で行ってまいりました検討の内容につきましては議会改革検討会に送らせていただきたいと思います。

なお、その送る内容についてなのですが、これも議長案でございますけれども、皆さんのお手元にきょう配付させていただきました資料2、これは議員定数の考え方の数ですけれども、この資料2とそれから資料3、これは各議員の皆さんが意見を述べていただいたもの、きょう発言いただいたものは、これにつけ加わることになると思いますが、この2つを申し送る内容にしたいなと思いますけれども、それもあわせてよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) ありがとうございます。

それでは、谷川議員。

●議員（谷川芳一）　　今言ったことで私も異論はないのです。ただ、ここにきょうの案件の中に議員定数ということしかうたっていない中で、今そちらの議会改革検討会のほうに移すということについても私はそれはそれで皆さんの意見でいいのですけれども、確認をさせていただきたいことは、議員報酬のことがここに出ていないので、きちんと、この扱いも一緒に送るのかと、いろいろこれについては、一番いずいのは、定数の問題もそうだけれども、議員の報酬のことについてもきちっと送るなら送るといって送っておかないと、いやいや、ここに入れているのはこれだけだということであれば、最初の1回目のときには報酬のことも議論したのですが、ここには議題に上がってきていないので、ということはセット論として捉えていいのかということになりますので、僕はそうではないという意見もたくさんありましたので、ここら辺は、あとはやはり、新聞社がいたとしてもこれは構わないと思うのですよ。長い間の中で、きょうの議案の中ではこれしか入っていないので、きちっと議長のほうからその考えを送るなら、やはりきちっとそれも送りますということなのか、いやいやこれが終わってからまた改めてやるということなのか、考え方はそれぞれ、これだけいると違うと思うので、その考え方も聞かせてほしいし、また、皆さんに聞いてもいいのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

●議長（金澤俊）　　今谷川議員から御意見がございましたが、私もそこはこの定数についての話を結論づけるに当たっては整理が必要な部分だと思っております。セット論でお話をされている議員もいらっしゃいますので、その考えはしっかり私も尊重した上で、この定数については結論づけなければいけないと思っけていまして、そこも含めて申し送った代表者会議でどうするのかということは議論されるべきだと思います。

なお、定数を削減することが前提で報酬を上げるというようなことでやっていた場合に、定数が仮に今皆さんにお配りしている現状維持だという結論になった場合でも、今後の議員のなり手をしっかりと確保していくとかという意味において、報酬を上げていくことがまだ必要だという議論も次のステージではできて、することが可能だと思います。

さらにあわせて、では市民理解を得るに当たってはどういうことを、それこそ議会改革なりで、コスト削減ですとか効率化とかということ、今やっているものを見直していくべきものは何なのかということも、定数以外の部分で、どう市民理解を得ていくかというものを考えていかなければいけないものですから、そういうことも、仮に現状維持で定数が行った場合であっても、皆さんのまた深い議論をしなければいけないものと思っけておりますので、今正副議長としては、そういったことは今後必要に

なってくるだろうというふうに思っておりますが、セット論でこれまで提案してきた方々の思いというのも大事にしながら今後は進めていきたいと思っています。

よろしいでしょうか。

谷川議員。

●議員（谷川芳一） よくわかりました。議長は十分に認識しているということですから、いいです。

ただ、やはり私は、この問題というのは鳥越市長時代からずっと20年以上も残されてきた問題ですから、きちんとやはりステージを上げていくと。しかしこれは報酬審議会が最終的に決めることですから、それはそちらに余り重しになることはできないけれども、やはり今までの実態の中で議論した上できちんと公開の場でやってもいいなど。これは中には下げるという主張の人もいますし、上げるという人もいますし、いろいろな中で次の若い人たちが出やすい状況をつくることを踏まえたとき、きちんと公開して市民から批判を浴びないような方法で、僕は議論して、きちんと決まったことでやっていきたいと思います。そういう議論をした結果、こうなのですよということをおの人に公開できるようなことをしていただきたいということをお願いしたい。

ただ、だからといって審議会に極端にたがをはめるようなこともできないわけですから、そこら辺は非常に難しいことだと思うのです。ただ議会は議会の意見としてきちっと市長なり理事者側に申し上げてこういうふうになっていますということをやっても僕はいいのかなと、この20年以上経過した中でいくと、そういうこともあってしかるべきかなと。恐らく全国を探しても、20年間も上がっていないような市町村は、僕は余り、町村は別にしても、市でこれだけの人口があつてとか、恐らく同等では20年間も押さえられているところはないと思います。そういう事情があつてこう来たから、それはそれでよしとします。しかしやはりこれからはそういうことを踏まえてきちんと言うべきことは言っておいたほうがこれからの人にいいと思うので、一言申し上げておきます。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

それでは、検討会にこの定数については今後送るということは決めさせていただきますけれども、先ほどのもう一つの論点、いつこれを結論づけるかということですが、今定例会中という声もあれば、まだもうちょっと、1回か2回か定例会を置いたほうがいいのかという御意見もございまして、これは仮に今定例会中だと、何回ぐらい場を持てますか。（発言する者あり）最終日に1回。今定例会中だと、最終日のいつもやっている検討会、あのタイミングのみというふうになり

ます。その間、各会派で一つの結論を決めて持ってきていただかなければいけないスケジュール感になりますけれども、この点についても何か御意見があれば。ある程度もう会派でもまとまりそうだというものであればいいとは思いますが、いかがですか。ちょっと、いつまでということについて議論があったので。

小山議員。

●議員（小山征三） 今定例会で議会改革検討会は1回ということなので、できれば今定例会を目標に決めるということで、そして、ただ、その議会改革検討会の結果を、私たちもどんな議論をされているかというのを当然聞きますので、その中で、やむを得ないなと思えば次の議会になってもやぶさかではないと思います。ただ、やはりこれをいつまでも引っ張るのではなくて、私が一番最初に言った複数の委員会所属だとか、視察のあり方、そして審査の影響等を考慮して、議員定数を離れて議会改革検討をするべきだと言っている手前上、まずは今議会を目標に進めていただきたいなと思っております。

●議長（金澤俊） 小野寺議員。

●議員（小野寺幸恵） 私も小山議員と同じです。議論がもし長引いてしまっても、そこで打ち切るということはあってはならないと思いますので、目標でということで、その上で会派の中でも意見が分かれている会派もありますので、正副議長が案を出していただいて、それをもとに会派で議論して議会改革検討会に臨むというほうがスムーズではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

●議長（金澤俊） 確認ですけれども、それはいつ決めるかということについての案ですか。

小野寺議員、もうちょっと詳しく。

●議員（小野寺幸恵） はい。今議会で決めることとするのです。とりあえず目標にします。それで、もし、いろいろな意見が分かれて、次の議会になってしまっても、それは否定しません。でも目標は今議会。それで、その上で、今議会での検討会は、あと最終日に1回と、あとやれても代表者会議だと思しますので、正副議長案があって、それを会派でも見、その意見を持ち寄って議論するというほうがスムーズではないかと思えます。ということです。

●議長（金澤俊） はい。理解しました。

それは、できますよね。（発言する者あり）はい。

他に御意見はございますか。

矢嶋議員。

●議員（矢嶋翼） 特別根拠はありませんけれども、今議会中は無理なのではない

ですか。僕はそう思います。ですから、少なくとも前期の2年の中でという前提でこれはスタートしていますので、6月議会あるいは9月議会という、それもありがたいことにしていただかないと、ちょっとぴりぴりしてしまうかなと思います。

●議長（金澤俊） 池田議員。

●議員（池田謙次） いや、だから結局、出尽くした感があり、いろいろな今の決め事だけでもこういう意見があるわけでしょう。申しわけないけれども、今お二方から、例えばもう一議会延ばしたほうがいいと。では、一議会延ばしたら何があるのと、申しわけないけれども、へ理屈ではないけれども、だから、さっきあったように、私も小山議員なり小野寺議員と賛成で、もう決めて次から次にやっていかないと改革にならないし、だってこれだけ出て、さっき話があった議会改革、公の場でやって、私はやっていただいて、そこで今のことも全部含めて出して、そこで結論を私は出してほしいというふうに思います。

●議長（金澤俊） 触沢議員、何かありますか。一応、ここは縛りはないですけれども、各会派のそれぞれの意見を言っていたいたようなどころもあるので、何かあったら。

●議員（触沢高秀） スピードというのは非常に大事だと思うので、自分も聞いていて、早目に決まればいいなとは思っていますけれども、当初の予定ではことしの12月ぐらいまでに結論を出すという前提の話があったので、そこまで私は一人会派なので、皆さん会派の中でいろいろやはり調整することがあると思いますけれども、会派の中でまとまれば、それはそれで早く進んでいくと思いますし、と思うので、その辺の仕切りはやはり正副議長なりの仕切りになるのかなとは思っています。

それで、私はふやしたほうがいいのかという立場なので、できるだけ1名はふやしていただきたいと考えております。

以上です。

●議長（金澤俊） わかりました。

今それぞれ御意見いただきました。ありがとうございます。きょうも残り時間がちょっと少なくなってきたので、この辺でまとめたいと思いますけれども、決める時期については、これも議論が今分かれています。それで、今定例会中というふうにも求めている方々からも、無理であればこの定例会でなくても、先延ばししてもしようがないではないかという御意見も、ある程度幅を持った発言をいただいておりますので、まずは先ほど決めさせていただいた検討会に送りまして、この時期をいつにするかというものも、できるだけ早い成立を目指しながらも、しっかり議論をして、必要であれば時間をかけていくと、こういうことで進めさせていただきたいと思いますが、

よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) よろしいですか。ありがとうございます。

●議長(金澤俊) それでは、きょう皆さんに議論いただきたいものは一応結論は
つきましたが、その他皆さんから何かございますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) よろしいですか。

以上で、本日の全員協議会を終了いたします。

お疲れさまでした。

散 会 午前11時48分

以 上。

令和元年12月13日の全員協議会における主な検証意見

議員名	検証意見
矢嶋議員	<ul style="list-style-type: none"> ・定数36名のときも26名であったときも経験したが、余り数にこだわらず、そのときの数できちんと覚悟を持って行っていた。 ・定数の議論は、当事者より第三者の意見が必要と考える。
山谷議員	<ul style="list-style-type: none"> ・投票率と定数の関係についてはリンクしないと考える。 ・市民に対し、これぐらいやらなければならないからこの定数が必要だということを、議員のほうから提唱していくことが必要と考える。
神山議員	<ul style="list-style-type: none"> ・定数36名のときや30名のときなどとの比較検証をする必要がある。 ・検証委員会などををつくって集中して検証を行うという方法もある。
池田議員	<ul style="list-style-type: none"> ・定数による、本会議における影響を実感するのは難しい。 ・常任委員会数を現在の4つから3つにするなど複数所属について考える必要がある。
小山議員	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の複数所属、視察、審査の影響等について考えるべきだが、議員定数の案件から切り離して、議会改革検討会で検討していくべきと考える。 ・投票率の分析をする必要がある。 ・定数の議論は早目に決着させるべきで、全員協議会で挙手し集約するというわけにもいかないの、個人の意見を集約して表にするなどして、令和2年12月までというより、令和2年の2月、3月にでも結論を出してよいと考える。
松井議員	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の36名のときなどと比較する議論は、質問時間が現在と違い、質問方法も一括方式のみであったため、定量的な比較は意味がないと考える。 ・検証といっても、感覚的なことであり、議員1期目の方と、期数を重ねている方で感じ方も違うので、とりあえず意見を出し合った上でまとめるしかないと考える。
越川議員	<ul style="list-style-type: none"> ・26名であったときについて比較して考えることは検証に値すると考えられ、公式の場においては、ふぐあいがあるという発言はなかったと思う。ただし、委員会のあり方については、全員協議会で話が出ていたので考えていく必要がある。 ・常任委員会については、苫小牧市議会では交渉会派が2名以上となっているので、各会派が各委員会に所属できることを考え、4つから2つにすることを提案したい。 ・議会費全体（報酬、政務活動費、委員会視察の廃止）についても検証のポイントとなると考える。 ・市民の意見を聞くフリートークのような場を設ける必要があると考える。また、定数を減らしても、市民の意見を広く聞くことができるのかということについて議会改革検討会で議論してほしい。
桜井議員	<ul style="list-style-type: none"> ・定数36名のときと現在とでは制度が違うため比較をするのは大変だと思う。 ・議会費を減らす議論より、市政に対するチェックを行うことが重要なことであると考える。

〈参考〉検証項目：26名であったときと、現状28名との比較検証

※26名であった期間：平成28年11月から30年7月補欠選挙が行われるまで

本会議

- ①質問人数への影響について
- ②質問時間への影響について
- ③議案等の質疑における影響について

委員会（参考：H29.5～H30.7厚生委員会・文教経済委員会 実質6名）

- ④人数構成と審査等への影響について
- ⑤委員会視察等への影響について

令和元年11月27日及び12月13日の全員協議会における意見集約
【議員定数について】

議員数 (正副議長を除く)	現状維持	減	増	保留
26人	17人	7人	1人	1人

令和元年11月27日及び12月13日の全員協議会における意見概要

No.	議員名	区分	意見概要	現状維持	減	増
1	矢嶋 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・人口推移、市民理解を考えると減の方向で考える。 ・定数については第三者の意見が必要とも考える。 ・報酬と定数を分けて考えたほうがよい。 	○	2名	
		検証	<ul style="list-style-type: none"> ・定数36名のときも26名であったときも経験したが、余り数にこだわらず、そのときの人数できちんと覚悟を持って行っていた。 ・定数の議論は、当事者より第三者の意見が必要と考える。 			
2	喜多 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・市民が定数を減らしたいと思うのは、根幹として税金の無駄と思うからである。人口から見ると、定数は現状維持と考える。 	○		
3	山谷 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・一旦減らすとふやせないと思う。 ・市民の意見の反映や、それぞれの議員の得意分野などもあり、市民に負担がかからないように考えると現状維持。 	○		
		検証	<ul style="list-style-type: none"> ・投票率と定数の関係についてはリンクしないと考える。 ・市民に対し、これぐらいやらなければならないからこの定数が必要だということを、議員のほうから提唱していくことが必要と考える。 			
4	板谷 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・定数が多いということは発信力があることになり、定数を減らすと発信力も減ると考える。 ・若い人が立候補するためにハードルを下げることも必要。 ・検証は、26名だったときでいうと、本会議中心主義なので、委員会の人数が減っても余り影響がないと考える。 	○		
5	竹田 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が立候補しやすい環境づくりが必要。定数減となると組織票がある議員は出やすいが、組織を持たない人は出づらくなるため現状維持と考える。 	○		
6	宇多 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・議会の活動を市民に伝えたいと思う。 ・子育てをしている若い人などは、議員に立候補するにはお金がかかるという意見が出ており、子育て中の方が議員としてやっていくのは大変な環境ではないかと思う。 ・26名で議会運営をしていたとき、常任委員会の委員長としては、委員長を除いて5名での議論を見て、もう少し人数がいて議論を深めてほしいと思った。 	○		
7	木村 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・現在の定数及び報酬は、全国的に見ると遜色ないが、中途半端であると思う。個人的には、4名減の24名にして、報酬を下げてもいいと思う。 ・市民の声を届けるということを考えるのであれば、議会費は現状のままで定数を40人、50人ぐらいにしてもいいと考える。 	○	4名	

No.	議員名	区分	意見概要	現状維持	減	増
8	神山 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・同日選挙の話のときに28名の現状維持としていたが、検証の結果を出すべきであり、増減の議論はその後と考える。 ・検証は、26名のときの委員会等の機能の検証を行い、委員会中心主義、複数の委員会の所属、通年議会も視野に入れて考えるべき。 ・報酬と定数は別に考えるべき。 	○		
		検証	<ul style="list-style-type: none"> ・定数36名のときや30名のときなどとの比較検証をする必要がある。 ・検証委員会などををつくって集中して検証を行うという方法もある。 			
9	大西 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・人口から見ると他市と比較して現状維持でいいと思う。判断基準等さまざま議論すべき。 	○		
10	大野 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・現状維持と考えている。 ・通年議会、複数の委員会の所属も視野に入れて考えるべき。 ・市民約6,136人の代表というより、171,811人の市民全体の代表と思っている。 	○		
11	池田 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・検証をするべき。 ・数も大事だが、議員の質問力、中身も力をつけなければならない。（議会改革＝議員改革） ・報酬は、決定する組織が報酬審議会であるため、定数と報酬がセットにはならない。 ・委員会について、もっといろいろな意見があればいいと思う。現在4つある常任委員会を3つにするなどを検討すべき。 	○		
		検証	<ul style="list-style-type: none"> ・定数による、本会議における影響を実感するのは難しい。 ・常任委員会数を現在の4つから3つにするなど複数所属について考える必要がある。 			

No.	議員名	区分	意見概要	現状維持	減	増
12	松尾 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた議会運営には数が必要であり、2040年の人口減まで時間もあり、若い人の立候補を妨げないということを考えると、現状維持と考える。 ・情報不足であるので、検証は議員28名で議論を展開することで、早期に結論は出せるものと思う。 ・定数と報酬は別に協議するものとする。 	○		
13	橋本 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・若い人は仕事やお金のことを考えると立候補が難しい環境である。新しい人が立候補できる環境づくりを議論する必要がある。 	○		
14	佐々木 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・人口から議員定数を見ると、他市と比べて定数が多いわけではなく、現状維持が適正と考える。 ・28名から定数が減ったときの分析及び投票率の分析などをする必要がある。 	○		
15	岩田 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・議員1人当たりの人口で見ると、定数に問題なく、仮に6,000人を切ったら、定数減の議論をするべきと考える。 	○		
16	小山 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・分析、検証が必要。 ・定数は多いほうがよいが、人口減少により定数は現状維持がよいと考える。 ・4年前と比べて今回の有権者数は2,000人増えていたが、投票率は下がった。よって投票率を上げることを考えるべき。 ・報酬と定数は別に考える。 ・若い人が立候補するには、定数減では難しいため間口を広げる必要がある。 ・議会の活動は市民に伝わりにくいですが、議会としてはいろいろと既にやっている。 	○		
		検証	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の複数所属、視察、審査の影響等について考えるべきだが、議員定数の案件から切り離して、議会改革検討会で検討していくべきと考える。 ・投票率の分析をする必要がある。 ・定数の議論は早目に決着させるべきで、全員協議会で挙手し集約するというわけにもいかないなので、個人の意見を集約して表にするなどして、令和2年12月までというより、令和2年の2月、3月にでも結論を出してよいと考える。 			

No.	議員名	区分	意見概要	現状維持	減	増
17	松井 議員		<ul style="list-style-type: none"> 正しいと思う定数はそれぞれ違う。過去の議論は意味がないと考える。総合戦略における人口ビジョンを見ると2040年には14万人台と人口減少について載っている。これまでどおりではなく、議会として質を高め、若い優秀な人材が目指すような魅力ある議会にしていくべき。 定数と報酬との関連づけは必要。 		○	
		検証	<ul style="list-style-type: none"> 過去の36名のときなどと比較する議論は、質問時間が現在と違い、質問方法も一括方式のみであったため、定量的な比較は意味がないと考える。 検証といっても、感覚的なことであり、議員1期目の方と、期数を重ねている方で感じ方も違うので、とりあえず意見を出し合った上でまとめるしかないと思う。 			
18	牧田 議員		<ul style="list-style-type: none"> 人口減少は加速していくと考えられ、定数減は避けて通れないものであり、4名減の24名で考える。 現在4つある常任委員会を3つにして委員の人数をふやすと考えると定数は24名と考える。 若い人が立候補するためにも、報酬は上げるべき。 		○ 4名	
19	首藤 議員		<ul style="list-style-type: none"> 人口減少が始まっているため、4名減の24名で考える。 段階的に減らすかどうかは議論していくべき。 定数と報酬はセットで考えるべき。 平成15年から報酬が変わっていない。子育てを含めやっていけるかという、報酬は高くないと思う。ある程度インセンティブがなければ若い世代の立候補者が出てきにくいと考える。 		○ 4名	
20	越川 議員		<ul style="list-style-type: none"> 人口減少に伴う税収減、費用対効果の現実を受けとめ、定数4名減の24名と考える。 人口ではなく有権者数で考えると、R1.9.1現在144,859人/6,136人≒24人 26名で運営していたときもあるので定数削減は可能と考える。 報酬と定数はセットでなくてもよいが、関連はある。 議員定数について、スケジュール感を持って進めるために何を検証するのか具体的に考えなくてはならない。 		○ 4名	
		検証	<ul style="list-style-type: none"> 26名であったときについて比較して考えることは検証に値すると考えられ、公式の場においては、ふぐあいがあるという発言はなかったと思う。ただし、委員会のあり方については、全員協議会で話が出ていたので考えていく必要がある。 常任委員会については、苫小牧市議会では交渉会派が2名以上となっているので、各会派が各委員会に所属できることを考え、4つから2つにすることを提案したい。 議会費全体（報酬、政務活動費、委員会視察の廃止）についても検証のポイントとなると考える。 市民の意見を聞くフリートークのような場を設ける必要があると考える。また、定数を減らしても、市民の意見を広く聞くことができるのかということについて議会改革検討会で議論してほしい。 			

No.	議員名	区分	意見概要	現状維持	減	増
21	小野寺 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・議員は市民の代表であり、定数削減をすると議員1人当たりの負担が大きくなり、議会改革である市民の声を聞くということに逆行する。 ・指標として人口ではなく有権者数といった意見もあったが、18歳未満の子の意見も聞かなければならないと思う。 ・投票率を上げる努力は必要。議員の活動が見えるようにするべき。 ・定数28名は最低ライン。 ・委員会のあり方などについて今後意見を述べたい。 ・5項目以外にも検証項目を出して検証すべき。 	○		
22	原 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・定数28名は、これ以上減らすべきではない。 ・市民の声を伝える役目があるため、苫小牧の東西に長い地理的条件を考えると最低限守っていくべき人数と考える。 	○		
23	富岡 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・苫小牧は東西に長いこともあり、今の定数は少ないくらいでもう1人2人増やしてもいいくらいである。 ・議員が頑張って活動していることをもっと市民に伝えるべきである。 	○		
24	桜井 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・定数の増減ではなく、何人が適正なのかということを議論する必要がある。 ・委員会の適正な人数、あり方を議論した上で、定数について議論するべき。例えば委員会数を増やし、1人が複数に所属するなど。 ・新人が立候補しやすい環境づくりが必要であり、定数減にするとベテラン議員がやめないと出づらい環境である。 			
		検証	<ul style="list-style-type: none"> ・定数36名のとくと現在とでは制度が違うため比較をするのは大変だと思う。 ・議会費を減らす議論より、市政に対するチェックを行うことが重要なことであると考えます。 			
25	谷川 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・過去に市が財政的に厳しいときに、職員減の話があり、市議会も定数減を行ったが、急激に減らすのではなく、まず定数を26名に削減し、今後段階的に削減する。 ・若い人の立候補のためにも、定数減、報酬増でセットで考えてもよい。 		○ 2名	
26	触沢 議員		<ul style="list-style-type: none"> ・定数は増やすべきであり、報酬も上げるべきである。 			○